

IDA15増資の成功と 日本にとっての課題

平成20年1月23日
DC開発フォーラムBBL

世界銀行(IDA)資金動員局
福住 一徳

1

IDAの概要

- IBRDの姉妹機関として1960年に設立。
- 世界81カ国の最貧国に対し無利子で最長40年の融資やグラント(贈与)を供与。
- 最貧国を支援する最大の資金源の一つ(近年は年間平均100億ドルで推移)。

2

IDAの地域別融資額 (2007年度融資承認額)

地域	金額(百万ドル/円)	割合(%)
サブサハラ・アフリカ	57億5900万ドル (6680億円)	49%
南アジア	40億3200万ドル(4680億円)	34%
東アジア・大洋州	12億3700万ドル(1440億円)	10%
ヨーロッパ・中央アジア	4億2200万ドル (490億円)	4%
中東・北アフリカ	2億1600万ドル (250億円)	2%
ラテンアメリカ・カリブ海	2億ドル (230億円)	2%
合計	118億6700万ドル (1兆3770億円)	100%

3

IDAのセクター別融資額 (2007年度融資承認額)

セクター	金額(百万ドル/円)	割合(%)
行政・法律	27億3800万ドル(3180億円)	23%
保健・社会サービス	18億6600万ドル(2160億円)	16%
教育	16億100万ドル(1850億円)	14%
運輸	14億1200万ドル(1640億円)	12%
上下水道・治水	12億3200万ドル(1430億円)	10%
エネルギー・鉱業	11億6400万ドル(1350億円)	10%
農業	7億9400万ドル(920億円)	7%
金融	4億7600万ドル(550億円)	4%
産業・貿易	4億3700万ドル(510億円)	4%
情報・通信	1億4700万ドル(170億円)	1%
合計	118億6700万ドル(1兆3770億円)	100%

4

【 IDAの有する比較優位 】

- セクター横断的な支援
- 現地密着型サポート
- 高い調整機能
- 資金と知的基盤のパッケージ
- グローバルな開発経験とノウハウ

5

【 IDAの増資プロセス 】

- IDAの原資: ドナーによる拠出金(出資金)、内部資金及び他グループ機関からの純益移転
- 増資(Replenishment)プロセス: 3年に一度。IDA15は2008年7月から2011年6月を対象。
- IDA15増資交渉: 2007年中に計5回のドナー会合を開催。12月最終会合にて決着。

6

国際的な援助潮流の変化

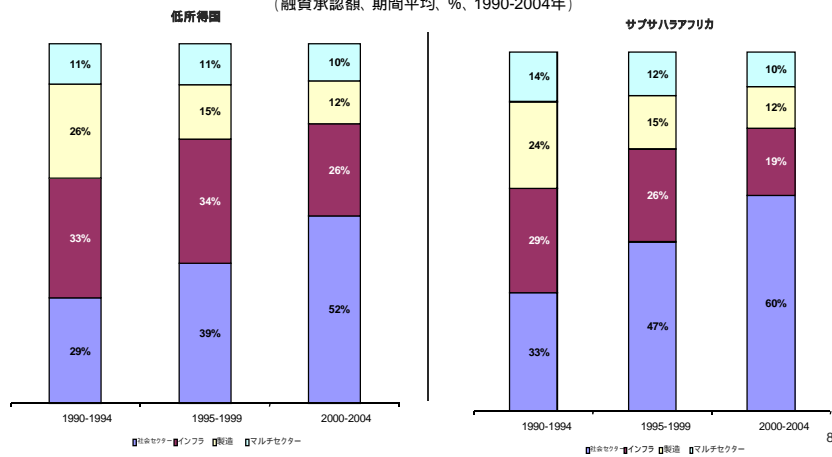
- 国際的な援助構造の多様化
 - 新興ドナーによる活動の活発化
 - グローバルな基金、民間非営利組織からの資金流入
- 援助の細分化、縦割り支援の増加
- ODA資金のセクター偏向

7

近年のODAのセクター動向

低所得国およびサブサハラ・アフリカへのODA総額のセクター別内訳

(融資承認額、期間平均、%、1990-2004年)

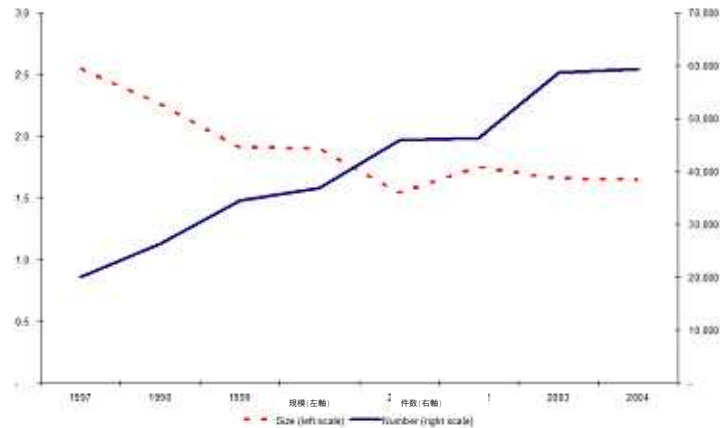


債権国報告システム(CRS) Online(Table 1)

援助チャネルの細分化が進む世界的なODA

OECDデータベースに含まれている全ドナー活動の合計件数と平均規模

(百万ドル、2004年価格)



出典：債権国報告システム(CRS) Online (Table 1)

9

重要性を増す「プラットフォーム(共通基盤)」概念

- 「プラットフォーム」としてのIDAの二つの役割
 - (i) 資金および知的サービスの提供による直接的な支援
 - (ii) 援助の有効性を高めるのに役立つ共通基盤の提供
- IDAに期待される主な分野
 - “vertical”な資金を補完する“horizontal”なアプローチ
 - セクター間のバランスの取れた支援
 - 気候変動問題に関する取組強化
 - 援助協調・調和の促進
 - 借入国の債務持続可能性確保

10

【 IDA15増資の概要 】

- 増資全体規模: 416億ドル (IDA14: 321億ドル)
- 世銀グループ (IBRD/IFC) からの総額35億ドルの純益移転
- 多国間債務救済イニシアティブ (MDRI) 実施に伴う資金補填
- 合計45カ国がドナーとして参加、うち新規ドナーとして中国、キプロス、エジプト、エストニア、ラトビア及びリトアニアの6カ国が参加。

11

【 IDA15 成功の背景 】

- 成果を実現するIDAの活動に対する信認
- ミレニアム開発目標 (MDGs) 達成に向けた国際社会の機運の高まり
- 新総裁によるイニシアティブ発揮

12

2008年：日本の開発援助にとっての 転換点

日本は出資比率10%、英米に次ぐ第3位の出資国として、IDA15増資に多大な貢献。

(今年の主要なイベント)

- 2008年5月、TICAD(アフリカ開発会議)開催
- 2008年7月、北海道洞爺湖G8サミット開催
- 2008年10月、新JICA誕生
- ミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けた中間点

13

世銀と日本の共通の開発課題

- アフリカにおける開発ニーズの高まり
- アジアの成長と安定
- 気候変動問題への対応
- 紛争後の国々に対する支援
- 地域プロジェクトを通じた地域統合の促進

14

【国際機関の戦略的活用に向けて】

- 複眼的視点:「ハード」と「ソフト」のシナジー
- バイとマルチの有機的連携
- 双方の比較優位、強みを活かした分業と協業
- 途上国の持続的成長基盤整備
- 援助協調分野における協力